

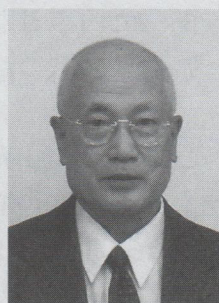
年頭のごあいさつ

「スポーツ祭東京2013」の年を迎えて

社団法人東京都山岳連盟
会長 佐藤 旺

新年明けましておめでとうございます。

社団法人東京都山岳連盟（都岳連）は、1948年（昭和23年）に初代会長小笠原勇八氏により東京山岳連盟として創立され、以来65年の歴史を刻んでまいりました。これもひとえに都岳連加盟団体会員と個人会員、ならびに日本山岳協会と加盟道府県山岳連盟のご協力の賜と、年頭にあたり心から感謝し御礼を申し上げます。



さて、本年は「スポーツ祭東京2013」と銘打って、第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会が東京都内の各スポーツ競技会場で開催されます。山岳競技会は、6月1日から2日の2日間第68回国民体育大会リハーサル大会、ついで本大会が10月4日から6日の3日間、東久留米市スポーツセンターにリード・ボルダリングの特設ボードを設置し開催されます。東京都で国体が開催されるのは昭和34年第14回大会以来54年ぶり3回目となります。

都岳連は今国体山岳競技会の運営主管を務めます。一昨年は山口県国体、昨年はぎふ清流国体に多くの都岳連役員を視察員として派遣し、また、連日東久留米市実行委員会役員の皆さま方と開催準備と運営の協議を重ね、日本の中心、東京都で開催される国体・山岳競技会を成功させるために努力をいたしております。54年ぶりに開催される東京国体が、さすが東京と言われる大会になるよう、本年度都岳連活動の相当部分が国体準備とその運営に費やされることをご理解いただき、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

さらに、都岳連は本年度内閣府公益社団法人に認可される予定です。現在の社団法人としての活動の大半は公益事業ですが、公益法人認可以降は「正しい登山を指導普及して、その健全な発展を図り、あわせて登山を通じて国民体育の振興に寄与すること」を目的としてより一層の公益事業活動を展開してまいります。

活動の骨子は：

- 1) 登山についての普及啓発事業
- 2) 山岳スポーツ競技の実施推進事業
- 3) 資格認定事業
- 4) 山岳自然保護事業

となります。

本年はこの事業活動を基盤として、以下の取り組みに重点を置いてまいります。

1. 多様化する登山環境に応じた指針作り
2. 日山協を中心とした全国の山岳連盟と関連団体との連携と活動
3. 都岳連の既存事業の見直しと新規事業の構築
4. 多発する山岳遭難事故防止の都岳連としての役割と活動の確認
5. 首都東京に「登山学校」「登山研修所」設立への準備
6. 2014年9月末までに都岳連事務所の移転
7. 世代交代のための人材確保

ところで、登山界も大きな変革期を迎えています。クライミング、ボルダリングを楽しむクライミング人口の増加、山岳地帯のトレイルランニング競技に興じる老若男女、また近郊の山々をあたらしいスタイルで登る若い方々が、従来のハイキングや縦走を楽しむ登山者達に加わりました。山を相手のスポーツも多様化の時代を迎えています。都岳連事業もこの多様化に対応し、ニーズに合致した新しい展開が求められています。

一方、自然を相手に行う登山は、体力、技術、知識、経験を基に厳しい自然に挑戦する危険を伴うスポーツであり、常に遭難の危機と直面していますが、人々はその危機をあまり理解されてないようです。都岳連では遭難を防止し、安全に登山できるように幅広い講習・研修会を催しております。また、一旦山岳遭難事故が発生し、遭難者の捜索・救助要請を受けた場合に備え、会長直属の救助隊を設置しております。

救助隊は、日本山岳救助機構合同会社（jRO）と連携して救助活動訓練を行い、万一出動の場合の捜索・救助技術の研鑽に励んでおります。昨年は出動件数4件、延べ出動日数は31日、同人数は131名を超えました。また、今年度からjRO主催の安全登山講習会に都岳連救助隊から講師を派遣し、より一層の提携を深めてまいります。

なお、現在の都岳連事務所は、京橋地区都市整備計画に伴い、2014年9月迄に新しい事務所に移転する必要があります。公益社団法人移行後の登山学校や研修所の開設を念頭に、アルパイン、一般登山、ハイキングに必要な知識、技術を指導できる施設を事務所移転先に設けたい、出来ればボルダリングやリード壁も設置したい、など希望ばかりが先行していますが、会員や役員の皆さまが利用しやすい交通の利便性と必要な広さ、手当てできる家賃とのバランスがとれず、移転先探しも困難を極めております。皆様のお近くで安く、広く、交通の便利のよい物件情報がありましたら是非ともお知らせください。

末筆になりましたが、皆さまの益々のご活躍と健康を祈念して新年のご挨拶といたします。